

Letter No. 43

雪崩分科会レター



2009年1月22日に新潟県湯沢町二居地区にある閉鎖されたスキー場で発生した面発生湿雪全層雪崩。発生区の規模は、幅50m、延長40m、積雪深0.7mであった。過去49年間で累計降雪量・積雪深とも2番目に低い小雪年にもかかわらず、草刈り等の整備が行われなかったことにより雪崩が発生してしまった。

(撮影者：町田 誠(町田建設株) 文章：町田 敬(長岡技術科学大学大学院))

2009年8月29日発行

(社) 日本雪氷学会 雪崩分科会

目 次

・ 2009年度雪崩分科会例会のご案内	1
・ 2008年度事業報告	2
・ 2009年度事業計画（案）	2
・ 2008年度会計報告	3
・ 2009年度予算（案）	3
・ 2008年度監査報告	4
・ 雪氷研究大会（2009・札幌）雪崩分科会セッションのご案内	5
・ 第20回 雪崩対策の基礎技術研修会開催のお知らせ	7
・ 第13回雪崩安全セミナー開催について	9
・ 雪崩分科会役員	10

雪崩分科会レターのメール配信をご利用下さい

経費（郵送料）の節減と編集・配送作業の軽減のため、35号より郵送による配信に代わって、電子メールによる雪崩分科会レターの配信を始めました。

メール配信をご希望の方は、メーリングリスト担当の松下（hmatsu@ceri.go.jp）まで、メールにてご連絡下さい。ご連絡いただいたメールアドレスは、雪崩分科会メーリングリストへ登録され、雪崩分科会レター（年2回発行）を中心に、各種分科会活動に関するメールを配信させていただきます。

途中でメールアドレスが変更になった場合にはできるだけ早くご連絡下さい。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

編集担当 今西伸行

■ 2009年度雪崩分科会例会のご案内

雪氷研究大会（2009・札幌）の開催期間中に、下記のとおり雪崩分科会例会（総会）を開催いたしますので、ご出席下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 日時：2009年10月2日（金） 17：30～18：00
2. 場所：北海道大学学術交流会館第一会議室 （A会場）
3. 主な議題
 - ・2008年度事業報告
 - ・2009年度事業計画（案）
 - ・2008年度会計報告
 - ・2009年度予算（案）
 - ・その他

●例会の前の16：00～17：30に、同じ会場にて雪崩分科会セッションが（p.5参照）が開催されますので、多数ご参加下さい。雪崩分科会会員以外のご参加も大歓迎です。

●例会終了後、懇親会を予定しております。場所は例会時にお知らせします。

■ 2008年度事業報告

1. 総会・研究会の開催（2008年9月24日 東京大学 講演：3件 参加者：50名）
2. 第12回全国山岳・スキー場雪崩安全セミナーの開催
（2009年1月21日 長野市戸隠スキー場 参加者：15名）
3. 雪氷学会主催「第19回雪崩対策の基礎技術研修会」の開催協力
（2009年1月22～23日 長野市戸隠スキー場 参加者：19名）
4. ニュースレターNo.41, 42の刊行
5. ホームページの更新と管理
6. 雪崩分科会メーリングリストの運営と管理
7. 分科会会員に対する研究協力（研究助成：1件）

■ 2009年度事業計画（案）

1. 総会の開催
2. 研究会の開催
3. ニュースレター刊行（2回）
4. 第13回全国山岳・スキー場雪崩安全セミナーの開催
5. 第20回雪崩対策基礎技術研修会の開催協力
6. 分科会会員に対する研究協力
7. ホームページの充実と活用
8. メーリングリストの活用

■ 2008年度会計報告

(収入の部)

科 目	2008年度決算
1. 基本財産運用収入	0
2. 会費収入	46,000
3. 事業収入	61,000
4. 助成金	0
5. 内部移管勘定	1,627
6. 資産勘定からの繰入	200,000
7. 雑収入	276
当期収入合計 a	308,903
前期繰越収支差額	136,244
収入合計 b	445,147

(支出の部)

科 目	2008年度決算
1. 事業支出	158,520
2. 管理費	134,568
3. 内部移管勘定	0
4. 資産勘定への繰入	0
当期支出合計 c	293,088
当期収支差額 a - c	15,815
次期繰越収支差額 b - c	152,059

■ 2009年度予算(案)

(収入の部)

科 目	2009年度予算
1. 基本財産運用収入	-
2. 会費収入	65,000
3. 事業収入	80,000
4. 助成金	-
5. 内部移管勘定	100,000
6. 資産勘定からの繰入	200,000
7. 雑収入	1,000
当期収入合計 a	446,000
前期繰越収支差額	106,305
収入合計 b	552,305

(支出の部)

科 目	2009年度予算
1. 事業支出	240,000
2. 管理費	225,000
3. 内部移管勘定	0
4. 資産勘定への繰入	0
5. 予備費	-
当期支出合計 c	465,000
当期収支差額 a - c	-19,000
次期繰越収支差額 b - c	87,305

【注意】繰越金額が決算と予算(案)で異なるのは、予算(案)を雪氷学会事務局に提出する日程の関係で、予算(案)を決算前に組む必要があり、繰越額を見込みで計上するためです。雪氷学会事務局へ提出した予算(案)と整合性を取るためとご理解下さい。

■ 2008年度監査報告

雪崩分科会 監査報告書

社団法人 日本雪氷学会
雪崩分科会会長 阿部 修 殿

2009年4月13日

社団法人 日本雪氷学会
雪崩分科会 監事

河島克久 

2008年4月1日から2009年3月31日までの2008年度における雪崩分科会会計及び業務の監査を、次のとおり報告する。

1. 監査の方法

(1) 会計監査

2009年4月13日に防災科学技術研究所雪氷防災研究センターにおいて、会費の徴収等会計業務の実態について確認した。

(2) 業務監査

2008年度雪氷学会全国大会時に行われた雪崩分科会例会（2008年9月24日開催）に出席するとともに、分科会役員等から事業内容や実施状況の聞き取り等を行うことによって、業務執行の妥当性を調べた。

2. 監査意見

(1) 会計監査

雪崩分科会の収支計算書および証憑類を監査した結果、正確かつ妥当であることを認める。

(2) 業務監査

雪崩分科会の活動は雪氷学会全国大会時に雪崩分科会例会として開催されるほか、雪崩安全セミナーの開催、雪氷学会主催の「雪崩対策の基礎技術研修会」の開催協力、2度のニュースレターの発行、ホームページの更新、分科会会員に対する研究協力等、様々な事業が活発になされている。また、これらの事業は、雪崩分科会の趣旨に沿って、適切に遂行されているものと判断する。

以上

■ 雪氷研究大会（2009・札幌）雪崩分科会セッションのご案内

2009年度 雪氷研究大会（2009・札幌）の会期中に、下記のとおり「雪氷研究大会（2009・札幌）雪崩分科会セッション」を開催いたします。

多数の雪崩分科会会員のご参加をお待ちしています。

記

日 時：2009年10月2日（金）16:00～17:30

場 所：北海道大学学術交流会館 第1会議室

● 雪崩分科会講演会： 16:00～17:00

— Dr. ナダレンジャーの3D眼鏡を通して見たなだれの世界 —

納口恭明（独立行政法人 防災科学技術研究所）

かつて普通の研究者であった Dr. ナダレンジャーを覚えている雪氷学会員は少なくなったかもしれない。若い世代は雪形と大道芸の変なおじさんしか思っていないのではないか。そこで今回は変身せずに奇妙な色眼鏡だけを通して、「雪崩」そのもののみならず、生命の始まりや社会のルール、スポーツの法則にも関係する粒子集団のなだれ現象の物理と数理を解説したい。時間が許せばさまざまな雪氷のパターン形成にも触れたい。

● 話題提供と報告（2編）： 17:00～17:30

1. カナダで日系移民が被災した雪崩災害について

和泉 薫（新潟大学災害復興科学センター）

今から百年前の1910年3月、カナダBC州ロジャースパスを通るカナダ大陸横断鉄道で先行雪崩の除雪作業を行っていた鉄道労働者62名が続いて発生した雪崩に埋没死亡するという大きな雪崩災害があった。峠の博物館にも展示があることから訪れたことのある方ならこの雪崩についてはご存じと思われるが、犠牲者の過半数の32名が日系移民であったことはほとんど知られていない。来年の3月にこの大災害から百周年をむかえるので、地元では慰霊祭に向けて日系移民も含めた犠牲者の子孫を捜す活動が行われている。そこでこの機会にこの雪崩災害と慰霊祭について紹介する。

2. 日本の雪崩調査団によるトルコ共和国の視察

Evgeniy Podolskiy (名古屋大学大学院環境学研究科)

2009年3月18日から25日にわたりトルコ共和国のアンカラと東アナトリアのポントゥス山脈・パラドケン山地を訪れ、雪崩が懸念される地域を視察するとともに、災害対策の研究者や政府担当者に面会し、日本政府とトルコ政府の技術協力の可能性について議論および意見交換をおこなった。本報告では上述の経過、トルコ共和国における雪崩対策の問題を概説するとともに、当地における地震や氷河の研究についても紹介する。

分科会費納入のお願い

今年度の雪崩分科会費を郵便振替で納入願います。金額は年額1,000円です。お手数ですが、郵便局の窓口において用紙を受け取り、必要事項をご記入の上、払い込み願います。(氏名と何年度分の会費かをお書き下さい。) 前年度までの会費に未納のある方は、あわせて納入願います。口座番号等は以下の通りです。

口座番号: 00670-0-26949、口座名称: 日本雪氷学会雪崩分科会

ご不明な点がございましたら会計担当幹事の山口悟までお問い合わせ下さい。連絡先は次の通りです。

郵便宛先: 〒940-0821 新潟県長岡市栖吉町前山 187-16

防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター

Tel: 0258-35-8933 Fax: 0258-35-0020 E-mail: yamasan@bosai.go.jp

■ 第 20 回 雪崩対策の基礎技術研修会開催のお知らせ

(社)日本雪氷学会では、雪崩対策の前線でご活躍のスキー場パトロール、山岳救助担当者、雪崩対策に関わるコンサルタント、自治体の関係者を対象とした「雪崩対策の基礎技術研修会」を平成 2 年度から開催しています。今年度も第 20 回目の研修会を下記の要領で実施いたしますのでご案内します。詳細につきましては日本雪氷学会雪崩分科会のホームページをご覧ください。

記

1. 開催月日

平成 22 年 1 月 21 日 (木) ~ 22 日 (金)

2. 開催場所

湯沢カルチャーセンター (新潟県湯沢町) + 周辺山地
(新潟県南魚沼郡湯沢町大字神立 628-1 TEL 025-784-1511)

3. プログラム (予定)

【1 月 21 日】

9:15 ~ 9:45 集合・受付 (湯沢カルチャーセンター)

9:45 ~ 17:00 開校式・室内研修・現地研修

「降積雪と雪崩の基礎知識」(阿部 修:(独)防災科学技術研究所雪氷防災研究センター 総括主任研究員)

「積雪観測法」(和泉 薫:新潟大学災害復興科学センター 教授)

「雪崩埋没者の捜索救助」(中山建生:日本勤労者山岳連盟雪崩講習会指導者)

「積雪観測法実習」(尾関俊浩:北海道教育大学札幌校 准教授, 山口 悟:(独)防災科学技術研究所雪氷防災研究センター 主任研究員, 竹内由香里:(独)森林総合研究所十日町試験地主任研究員)

「雪崩捜索、救助法実習」(中山建生、現地講師)

18:00~ 交流会

【1 月 22 日】

9:00~15:00 室内研修・現地研修

「雪崩危険斜面の判定・雪崩管理の実態」(町田 誠:町田建設(株)代表取締役)

「雪崩予測」(山口 悟)

「雪崩対策工の計画・設計」(上石 勲:(独)防災科学技術研究所雪氷防災研究センター 主任研究員)

「雪崩対策工の現地検討」(町田 誠)

15:00~15:30 修了試験・閉会式・修了証授与 (湯沢カルチャーセンター)

4. 受講申し込み

雪崩分科会ホームページ (<http://www.seppy.org/~nadare/>) に掲載されています「第 20 回雪崩対策の基礎技術研修会ご案内」の「申し込み要領」に従って手続きを行って下さい。
または、下記の雪崩対策の基礎技術研修会 事務局までお問い合わせ下さい。

5. 問い合わせ先

雪崩対策の基礎技術研修会 事務局

Tel:025-782-1181 Fax:025-782-2241

e-mail: machiken@sepia.ocn.ne.jp

町田建設（株） 〒949-6407 新潟県南魚沼市島新田 374 担当 田村、松井

■ 第 13 回雪崩安全セミナー開催について

雪氷研究大会（2009・札幌）の雪崩分科会総会で詳細な日程等が決定されますが、第 13 回雪崩安全セミナー開催について、概要をお知らせいたします。（申し込み等詳細は後日）

雪崩安全セミナーは、研究者と現場で教育や指導にあたる登山者、スキー場関係者の情報交流の場として発足し、札幌、福島、横浜、富山、金沢、京都、神戸などの勤労者山岳連盟の地方講習会を支えるメンバーの方々や、北海道の雪崩教育に関わる方々の熱意、そして研究者の方々の協力のもと開催されてきました。

セミナーの内容は、事故報告からの教訓、各地の雪崩対策、抱えている問題や教育活動の中身について、参加者とともに、意見交換をしながら報告をするというものです。これまでの活動は、雪崩教育の普及に関して一定の成果をあげて事故防止に貢献したと評価できるものであります。日本の経済成長とスポーツの関係は密接で、不況になればその影響は深刻で、登山もスキーも衰えていきます。さらに日本のスポーツ政策は貧弱で全てが個人任せになるため、とりわけ防御や安全のための教育は、関心はあっても取り組まれる機会は少ないのが現状です。当セミナーのような活動が続けられる理由は、雪崩事故で仲間を失った人達の思いとこれに共感した人たちが地道な活動を続けてきたからに他なりません。

雪崩に関心を持つさまざまな人達、団体の活動も平均化していると思います。それぞれに個性を打ち出して多くの人を引き付けるだけの力がないと思います。昨年度の第 12 回セミナー（長野県戸隠）では、調査活動の安全確保という現実的な課題から、登山者のもつ経験と技術を研究者が学ぶという内容でした。登山者と研究者のチームワークを作り上げるには毎年訓練を続ける必要があります。また研究者集団のみで解決を図る場合、さらに、二人組でのロープワークや、関連する雪上訓練も必要となります。これについては、計画的な取り組みが必要となりますので、第 13 回セミナーにおいても、これらの技術習得が中心となります。

中山建生（日本勤労者山岳連盟 雪崩講習会指導者）

1. 開催月日

平成 22 年 4 月 9 日（金）～11 日（日）の、いずれかの日を予定（分科会総会時に決定）

2. 場所

谷川岳 天神平 田尻尾根（群馬県みなかみ町 天神平スキー場 コース外地域）

3. 内容

①ロープの結束 ②2 人での確保 ③用具の使用 ④作業の安全と整地

4. 用具

〈共同装備〉ロープ 土のう袋

〈個人〉ハーネス カラビナ 確保機 シュリング

5. 講師予定者

中山建生 大河内延明

■ 雪崩分科会役員

役 職	氏 名	所 属
会 長	阿部 修	独立行政法人 防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター 新庄支所
副会長	和泉 薫	新潟大学 災害復興科学センター
副会長	上石 勲	独立行政法人 防災科学技術研究所 雪氷防災センター
監 事	河島 克久	新潟大学 災害復興科学センター
幹事長	尾関 俊浩	北海道教育大学 札幌校
幹 事 (会計)	山口 悟	独立行政法人 防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター
幹 事 (企画)	秋山 一弥	国土交通省 国土地理院
幹 事 (企画)	飯田 肇	立山カルデラ砂防博物館
幹 事 (企画)	中山 建生	日本勤労者山岳連盟
幹 事 (企画)	町田 誠	町田建設株式会社
幹 事 (編集)	今西 伸行	株式会社ドーコン 防災保全部
幹 事 (編集)	伊藤 陽一	独立行政法人 土木研究所 雪崩・地すべり研究センター
幹 事 (研究会)	竹内 由香里	独立行政法人 森林総合研究所 十日町試験地
幹 事 (メーリングリスト)	松下 拓樹	独立行政法人 土木研究所 寒地土木研究所
幹 事 (ホームページ)	池田 慎二	株式会社アルゴス 雪氷技術センター
顧 問	遠藤 八十一	国際雪形研究会
顧 問	若林 隆三	アルプス雪崩研究所
雪崩分科会ホームページ http://www.argos-net.co.jp/nadare_bunkakai/		
雪崩分科会事務局	〒002-8502 札幌市北区あいの里5条3丁目 北海道教育大学札幌校内 尾関 俊浩 Tel & Fax : 011-778-0381 E-mail : ozeki@sap.hokkyodai.ac.jp	
編集担当	〒004-8585 札幌市厚別区厚別中央1条5丁目4-1 株式会社ドーコン 防災保全部 今西 伸行 Tel : 011-801-1576 FAX : 011-801-1577 E-mail : ni1494@docon.jp	